

二〇二二年度 一般入試A日程

国 語

〔注意事項〕

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子の中を見てはいけません。
2. 問題冊子は23ページ、解答用紙はマーク・シート1枚です。監督者の指示に従って確認しなさい。
3. 問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
4. マークは、マーク・シートに記載してある「記入上の注意」をよく読んだうえで、正しくマークしなさい。
5. 受験番号及び氏名は、マーク・シートの所定欄に正確に記入し、また受験番号欄の番号を正しくマークしなさい。
6. 監督者の指示があつてから、マーク・シートの左上部にある「科目欄」に受験する科目名を記入しなさい。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

国語

(60分 100点) (解答番号

1

5

37

)

第一問 次の文章は、青山七恵の『ひとり日和』の一節です。笹塚駅のホームの売店でアルバイトをしている「わたし」(三田知寿)は二十一歳。親戚先にあたる七十一歳の吟子さんの家に居候し、同じ駅で整理員のアルバイトをしている藤田君と付き合っている。これを読んで、後の問いに答えなさい。(51点)

吟子さんの家には、ホースケさん^(注1)同様、藤田君専用の水色の箸^{はし}が置かれている。

駅でわたしの顔を見ても、もうたいして喜んでほくれないのに、どうして一緒にいるんだろう。惰性、という言葉しか思い浮かばない。認めたくないけれども、わたしはまた同じパターンに陥^(注1)っている気がする。陽平^(注2)と藤田君がわたしにとる態度はときどき似ている。本を読んでいるときに邪魔されたときの言葉とか、自分から歩調を合わせないところとか。

わたしは、秋になって茶色い背広を着込んだ彼の働く姿や、電車の行く末を見つめる横顔から相変わらず目が離せないでいる。家にいるときの投げ出した足の汚い爪^{つめ}や、面倒そうにわたしを見る目でさえ、これがずっと続いていけばいいのと思っている。

(中略)

笹塚駅に女の子のホーム整理員がやって来た。一目見たとたん、不安に駆^(注2)られた。来るべきものが来たな、という感じだ。彼女はきびきびとして、無^(注3)駄な動きがなかった。目が合うと、売店までわざわざ近づいてきて、わたしに声をかけた。

「糸井です。よろしくお願ひします」

人なつこい犬みたいな目をしている。少し茶色い髪は、帽子からはみ出て後ろでひとつにくくつてある。

「三田です。よろしくお願ひします」

わたしの返事を聞くと、彼女は笑顔を見せて自分の持ち場に戻って行った。一條^(注3)さんが指導している。小柄な彼女には茶色い

ズボンはぶかぶかで、肩パッドも大げさだった。人の波に押しつぶされそうで、わたしは
腕章が何度もずり落ちた。 (4) した。整理員、と書かれた

九時十分、藤田君が彼女に近寄って何か声をかけるのを見た。しっかり目に焼き付けてから、わたしは静かに目を閉じる。再び目を開けると、彼らはもう離れていた。

その日、わたしは一人で家に帰ってきた。最近、駅の外で待ち合わせて一緒に帰る回数は減ってきている。ひまなので、コンビニオンのアルバイトをまた少し増やした。藤田君も、新宿のレストランで夕方から働きだしたらしい。ハイチ料理を出す珍しいレストランなのだという。なぜそんなところで働くのかと聞いても、「紹介されたから」という返事しか返ってこなかった。ハイチも新宿も、わたしにとっては同じくらい遠いところに思える。

家に帰ると、玄関にはホースケさんの革靴があった。わたしはそのまま家には入らず、環八通りにソ⁽⁵⁾って歩いていき、区民プールで水着を借りて長いこと泳いだ。ごみ焼却場の熱を利用して、温水プールだ。おばさんたちが列を作り、中年の男性講師に引き連れられて水中ウォーキングをしている。秋の平日のプールに、若い女はわたしぐらいしかいなかった。頭が (6) するまで泳いで、プールサイドで休んだ。ベンチに横になっていると、窓の外の風景がやけにくつきりと目に映る。葉がなくなつて枝ばかりの花壇の向こうに車のオウ⁽⁷⁾来が見えた。道の端に捨ててあったビニール袋が強風に舞って、信号待ちをする車のフロントガラスに貼^はり付いている。歩道を走る自転車は前を行く歩行者が邪魔で、ハンドルを切りかねている。

(8) 今ごろ、家では吟子さんとホースケさんが仲良く落雁⁽⁹⁾でも食べながらおしゃべりしているんだろう。

ホームで働く女の子はわたしと糸井さんくらいしかいないので、彼女はわたしと仲良くしたいらしい。よく、声をかけてくる。「あったかいね」「涼しいね」「寒いね」などと。藤田君は彼女のことを「イトちゃん」と呼んだので、わたしも同じように呼んだ。ホームの二人は、人の波にまぎれて、近づいたり、離れたりする。彼らが近づいていくところを見ると、胃を両側からひっぱられているかのように、体の中がじいんとする。見たくないのに、見てしまう。⁽⁹⁾くせになるつらさだ。

イトちゃんが藤田君の袖をつまんで、何か言った。二人はこちらを振り返って、遠くからわたしを見つめた。気付かないふりをして、ガムやキャンディなどの補充⁽¹⁰⁾をする。

「今日、一緒にご飯食べない？」

九時十五分になって、ホームを去っていく男の子のあとから、イトちゃんが声をかけてきた。

「え、今日？」

「うん。藤田君も一緒に」

「うん、いいよ。あたし十一時あがりだけど、いい？」

「付き合ってるの、知らなかった。さつき聞いた。ミタちゃんてずっとこつち見てるね、って藤田君に言ったら教えてくれた」

わたしはえへへ、と笑ったが内心おだやかでない⁽¹¹⁾。おじさんが缶コーヒーを差し出してきたので、イトちゃんは「じゃ」と言っ
て階段に駆けて行った。「どうしよう」と呟いたら、おつりを受け取ったおじさんが「あ？」と聞き返した。

宝くじ売り場の脇のベンチに座ってわたしを待っていた二人は、微妙な距離を保ちつつ楽しげにおしゃべりしていた。かつてあたりを照らしていた夏の光は消えてしまっ、アイス屋も店じまいしている。店の前に降ろしてある白と青の縞柄⁽¹²⁾ののぼりは、吹きさらしになっているせいで今では捨てられた毛布のような風情⁽¹²⁾だった。

イトちゃんとわたしの髪の毛は同じくらいの長さだ。アデイダスのスニーカー⁽¹³⁾をハいているのも同じ。小さな手提げかばんしか持っていないのも同じ。見ていたら、自分がイトちゃんの出来の悪いコピーのように思えてきた。わたしを待っていたこの一時間半ほどのあいだに、二人はああしてずっとならべつていたのだろう。交わす言葉からお互いをあれこれさぐって、距離を縮めていたのだろう。藤田君が他の女の子としゃべっているのを、ほとんど見たことがないのに気付く。藤田君とは、いつも二人きりだった。吟子さんともかく、他の人とどんなふうにならべるとか、想像したこともなかった。

突然、あそこで足を組んで笑っている彼が、自分とはまるで無関係な人間に思えてきて、余計に足がすくんだ⁽¹⁵⁾。帰ろう、と思っ
たところで二人に気付かれた。

「おおい、ミタちゃん」

イトちゃんは立ち上がって手を振った。いい笑顔だ。見てみると気分が晴れる⁽¹⁶⁾。わたしもつられて笑った。

わたしと藤田君が並んでテーブルに着いた。向かいのイトちゃんのかわいい笑顔を見ていればまだ落ち着く。彼女はおしゃべりで、⁽¹⁷⁾気取りがない。それなのにわたしはこの上なく居心地が悪い。イトちゃんの顔の上に、吟子さんのしわだらけの顔を思い描いてみたが、気分は少しも晴れなかった。隣の藤田君はポテトをもそもそと食べている。ときどき何か言って彼女を笑わせている。イトちゃんに合わせて笑っている自分自身を、後ろから見ているような感じがした。同時に、そんな自分^{だれ}をさらに誰かに見られているような感じもした。

「ごめん、ちょっと用が」

わたしは立ち上がった。

「なんだよ」

藤田君が迷惑そうに見上げる。イトちゃんは心配そうな顔をしている。

⁽¹⁸⁾「今日、ばあさんの病院に付き添うんだ。ごめん、ほんとごめん。失礼」

わたしはテーブルに千円札を置いて駅に向かった。思いきり走ったので、わき腹が痛くなる。

ホームから見る笹塚の空はすつきりと晴れていた。視線を下げると駅前のケヤキ並木の下には絶えず人のオウ来があり、わたしはそこに二人の姿を探した。

(青山七恵『ひとり日和』による)

(注1) ホースケさん——吟子さんの男友達。

(注2) 陽平——「わたし」の昔の恋人。

(注3) 一條さん——笹塚駅の駅員。

(注4) 落雁——きな粉や麦粉などに砂糖や水あめを混ぜて練り固めた干菓子。

問1 傍線番号(1)「わたしはまた同じパターンに陥っている気がする」とあるが、「同じパターン」の内容の説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

1

- ① 恋人が「わたし」に依存するばかりなのに、自立を促そうとしないでいるということ
- ② 恋人の心は完全に冷めているのに、自分ではどうしていいのかわからず知らんふりをしていること
- ③ 恋人が「わたし」に愛想を尽かしているのに、その理由を考えて改善しようとしないうでいること
- ④ 恋人が「わたし」と別れたいそぶりを見せているのに、気付かないふりをして追い回していること
- ⑤ 恋人の「わたし」に対する関心が薄れていることに気付きながらも、あきらめきれないでいること

問2 傍線番号(2)「来るべきものが来たな」とあるが、これは何を表しているのか。その説明として、最も適切なものを、次の

①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

2

- ① 藤田君から「わたし」に別れを切り出す日が来たということ
- ② 藤田君の心をとらえそうな女の子が登場したということ
- ③ 職場でのライバルになりそうな新人が入って来たということ
- ④ 「わたし」や藤田君が苦手なタイプのアルバイトがやって来たということ
- ⑤ 「わたし」が会ったことのないほどの素敵な女の子が現れたということ

問3 傍線番号(3)・(5)・(7)・(10)・(13)と同じ漢字を使う語を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

3
 5
 7

(3) 無ダ

3

- ① ダ開策を探す
- ② ダ当な判断を下す
- ③ ダ落した生活を責められる
- ④ ダ作だと酷評される
- ⑤ 最後の一言はダ足であった

(5) ソつて

4

- ① 舞台で熱エンする
- ② 会社のエン革を話す
- ③ 試合がエン長になる
- ④ エン者を頼つて上京する
- ⑤ 歓迎のエン会に招く

(7) オウ来

5

- ① オウ州を旅行する
- ② 食欲オウ盛
- ③ 海オウ星の軌道
- ④ 書類にオウ印する
- ⑤ オウ診を頼む

(10) ホ充

6

- ① 株式をホ有する
- ② ヒグマをホ獲する
- ③ 説明をホ足する
- ④ これ以上の譲ホはあり得ない
- ⑤ ホ装工事をする

(13) ハイて

7

- ① リ発な子供
- ② 故人の財産を管りする
- ③ 面影が脳りに浮かぶ
- ④ 郷りに帰る
- ⑤ 英語の科目をり修する

問4 空欄番号

(4)

に入る語句として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

8

① うきうき

② そわそわ

③ じりじり

④ はらはら

⑤ しぶしぶ

問5 空欄番号

(6)

に入る語句として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

9

① くらくら

② はきはき

③ ひりひり

④ だらだら

⑤ ずんずん

問6 傍線番号(8)「今ごろ、家では吟子さんとホースケさんが仲良く落雁でも食べながらおしゃべりしているんだらう」とある

が、この一文の持つ表現効果として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

10

- ① 仲むつまじく過ぎす男女の姿とは対照的な、傷付け合うしかない藤田君と「わたし」との関係を強調している
- ② いたわり合って生きる男女の姿とは異なり、若さゆえに反発し合う藤田君と「わたし」との関係を暗示している
- ③ 落ち着いた付き合いを続ける男女の姿と対比させることで、不安定な藤田君と「わたし」との関係を際立たせている
- ④ 助け合う男女の姿とは正反対の、孤独感を深める「わたし」とそれに気づかない藤田君との寂しい関係を印象づける
- ⑤ 適度な距離を保つ男女の姿を描くことで、平行線をたどる藤田君と「わたし」とが今後歩む運命を予感させている

問7

傍線番号(9)「くせになるつらさだ」とあるが、なぜこのように言うのか。その理由を説明したものととして、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

11

- ① 藤田君がイトちゃんとして親しくしていても気にはしないが、藤田君の気持ちが自分から離れていくようなら注意しなければならぬと思うから
- ② 藤田君がイトちゃんに近づく様子など見たくはないが、藤田君のことがまだ好きな「わたし」は二人の様子が気になつて見ずにはいられないから
- ③ 藤田君にイトちゃんが好意を持っていることは明らかだが、イトちゃんと「わたし」は親友なので二人の友情を守るためには黙って見ているしかないから
- ④ 藤田君に対してイトちゃんは無関心だったのに、藤田君のアプローチで少しずつ親密さが増す様子を遠くから見ただけの自分が歯がゆいから
- ⑤ 藤田君はイトちゃんのことを好きではないはずなのに、「わたし」の気持ちを逆なでするようにイトちゃんと仲良くする姿を見せつけてくるのが腹立たしいから

問8

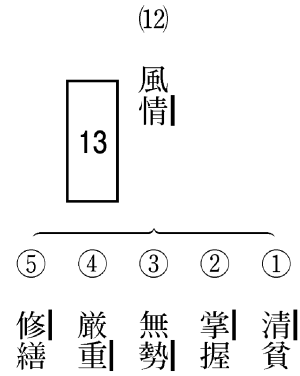
傍線番号(11)「内心おだやかでない」とあるが、その理由を説明したものととして、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

12

- ① 「わたし」と藤田君が付き合っていることを知りながら、イトちゃんが二人の仲を邪魔しようとして三人での食事を提案しているときか思えないから
- ② 「わたし」と藤田君が付き合っていることなど問題にせず、三人で食事をしようとするイトちゃんを信用しない方がいいのではないかと勘ぐってしまうから
- ③ 「わたし」と藤田君が付き合っていることをイトちゃんが知ったとわかってても、三人で食事に行くと藤田君とイトちゃんとはますます接近するような気がするから
- ④ 「わたし」と藤田君が付き合っていることを知らないふりをして、わざわざ三人での食事を提案してきたイトちゃんの意味が理解できず不安になったから
- ⑤ 「わたし」と藤田君が付き合っていることを認めたくないイトちゃんが、藤田君との親しさを見せて「わたし」にいやがらせをする気ではないかと疑ったから

問9 傍線番号(12)と同じ読みものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

13



問10 傍線番号(14)「自分がイトちゃんの出來の悪いコピーのように思えてきた」とあるが、ここから「わたし」のどのような気持ち^{あんど}がうかがえるか。その説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

14

- ① イトちゃんと「わたし」とは、何から何までよく似ているという安堵感^{あんど}
- ② 「わたし」は無意識のうちに、イトちゃんのまねばかりしているという敗北感
- ③ イトちゃんと「わたし」は全く違うのに、どこか共通点があるかのような違和感
- ④ 外見も性格も、「わたし」はイトちゃんに似ているようで似ていないという不安定感
- ⑤ イトちゃんに似ているところがあるのに、「わたし」には勝ち目がないという劣等感

問11 傍線番号(15)～(17)の本文における意味として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

15

17

(15) 足がすくんだ

15

- ① ひどく疲れて倒れそうになった
- ② 危険を感じて急いで逃げ出した
- ③ 緊張したり気後れしたりで動けなくなった
- ④ どうすることもできなくて困り果てた
- ⑤ 興奮して落ち着かなくなった

(16) 気分が晴れる

16

- ① 思うように物事が進んで気持ちが浮き立つ
- ② 疑いがなくなり安心する
- ③ 気持ちがすっきりと明るくなる
- ④ やる気が満ちてくる
- ⑤ 満足して自分の気持ちが落ち着く

(17) 気取りがない

17

- ① 自分がその場を盛り上げようと気を遣うことをしない
- ② 自分をよく見せようと体面を飾ることをしない
- ③ 自分が好かれようと相手にへつらうことをしない
- ④ 自分に関心を引きつけようとおどけることをしない
- ⑤ 自分の言うことに従わそうと威張ることをしない

問12

傍線番号(18)「今日、ばあさんの病院に付き添うんだつた」とあるが、このときの「わたし」の心情を説明したものととして、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

18

- ① 三人で食事をしているときの疎外感と居心地の悪さに我慢できなくなり、適当な口実を作ってもこの場を立ち去りたいと思っている
- ② 楽しそうにしている二人に嫌悪感を抱き、ここから逃げ出すことができれば吟子さんの病院に付き添う羽目になってもかまわないと思っている
- ③ その場の気まずい雰囲気にいたたまれなくなり、病院に行くという吟子さんに付き添うことで気分を落ち着けたいと思っている
- ④ 二人を残していくのは気がかりだが、吟子さんとの約束を破ることへの良心の呵責かしやくには耐えられないので早く帰ろうと思っている
- ⑤ 三人で食事をしていても恋人を失った自分にはつら iba ばかりで、誰にも気を遣わなくて済むように一人になりたいと思っている

問13

本文の内容に合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

19

- ① 藤田君とのことで一喜一憂していた「わたし」だったが、イトちゃんが現れたことで自分の言動を慎むようになった
- ② イトちゃんはわだかまりのない様子で「わたし」と接しているが、偏屈な「わたし」はそれを受け入れられずにいた
- ③ 藤田君は無意識のうちではあるが、「わたし」の前であってもイトちゃんに対して好意を示すような行動をしていた
- ④ イトちゃんの登場によって、「わたし」はぎくしゃくしていた藤田君との仲が疎遠になっていくような予感を覚えていた
- ⑤ 藤田君との不仲が原因で不安になって神経質な行動をとる「わたし」のことを、吟子さんはひそかに心配していた

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(49点)

人間の意識や思考というものが、物質世界に対してどのような関係にあるのか明らかではなかった時代には、人間の思考を物質世界の厳密なる因果的進行と切り離して「ブラックボックス」に入れることができた。そのブラックボックスの中では、すべてのことが可能であった。死者と交信することも、異カイの⁽¹⁾ヴィジョンを見ることも、この世界に存在しないものを仮想することもできた。

そのような、⁽²⁾「何でもあり」のブラックボックスの中においては、人間の思考が「曖昧^{あいまい}」でありうるのは当然であった。世界が因果的な視点からどれほど「厳密」にできていたとしても、思考はそれと切り離されたブラックボックスの中にあるのだから、それは曖昧になることもできたのである。

⁽³⁾、一方では思考の数理的基礎の解明が進み、また一方では脳科学や認知科学が発展してきたことによって、世界の物質の数学的に厳密な因果的進行から遊離したブラックボックスの中に人間の思考を隔離しておくことが、次第に困難になっていった。

今日のコンピュータの理論的基礎をつくったイギリスの数学者アラン・チューリングの「チューリング・マシーン」のモデルや、アメリカの数学者ノーバート・ウィーナーの「サイバネティクス」などの成果を通して、ブラックボックスに入っていたはずの人間の思考は、次第に⁽⁴⁾ハク日の下に曝^{さら}されていった。思考の本性は、脳や身体もまたその一部である物質世界を支配する厳密な因果的法則との連続性の中に把握されるに至ったのである。

脳に電極を⁽⁵⁾サすことによる単一の神経細胞の活動の計測や、fMRI（機能的磁気共鳴画像法）などの非侵襲的方法による脳機能の解明が進むことにより、⁽⁶⁾抽象的^{けいじてき}で形而上学的^{けいじてき}に見える人間の思考も、外界との相互作用の中に立ち現れる一般的な認知プロセスと共通の脳活動によって支えられていることが明らかにされていった。身体制御やリズム知覚、空間情報処理、感覚統合といった「地上的な」能力によって、物質的な世界に容易に着地しないかに見える「天上的」思考もまた支えられているのであ

る。

いうまでもなく、一般の認知プロセスと連続する形で抽象的な思考をも支える脳内のすべての物質的過程は、⁽⁷⁾きわめて精緻な自然法則に支配されており、そしてこれらの自然法則の究極的表現が、厳密な数学的形式である。

⁽⁸⁾「思考の自然化」とでも呼ぶべき事態の進行の下で、人間の思考はブラックボックスから出された。このような人間の思考の基礎に関する考え方の変化を前にして、思考の曖昧さは⁽⁹⁾ジ明のことではなく、むしろ一つの驚異であることをこそ見て取るべきである。脳内過程の厳密なる進行に支えられているにもかかわらず、人間の思考がいかにして「曖昧」たりうるのかということ自体が、⁽¹⁰⁾大変な問題を提起しているのである。

そもそも、人間の思考作用において、「曖昧」ということは本当に可能なのか？ もし可能だとしたら、その思考における「曖昧さ」は、それを支える脳の厳密なる因果的進行と、どのように関係するのか？

世界を因果的に見れば、そこには曖昧なものは一つもない。⁽¹¹⁾その曖昧さのない自然のプロセスを通して生み出された私たちの思考もまた、この世界にある精緻さの頭^{あたま}れでなければならぬはずである。

それにもかかわらず、私たちは、確かに、曖昧な自然言語の用法があるように感じる。もし、自然言語が、厳密な因果的進行が支配する世界の中に「曖昧」な要素を持ち込むということを可能にしているのだとすれば、それ自体が一つの奇跡だということかない。

この奇跡をもたらしている事情を突き詰めていけば、物質である脳にいかにか私たちの心が宿るかという心脳問題に論理的に行き着くことはいうまでもない。

そして、この、私たちの心の存在がもたらす奇跡は、単なる「厳密さの喪失」という問題では片づけられない、仮想空間の豊饒^{ほうじょう}をもたらししているのである。

言葉の持っている不思議な性質の一つは、それが数学的形式の基準からいえば曖昧であるからこそ、そこにある種の無視できない力が宿る、という点にある。だからこそ、言葉は、人間の思考において、社会的言説において、そして文学のような芸術表

現において力を持ち続けているのである。

そもそも、自然言語という思考の道具の豊饒さの起源は、数学的形式と対峙⁽¹²⁾したときに「曖昧」と片づけられがちな、その表現世界の内包する自由の中にあるようにさえ思われる。数学的形式と同じような形で「厳密さ」を追求すれば、自然言語の内包している可能性は、むしろ殺されてしまうのである。

たとえば、マックス・ウェーバー研究等で知られる経済史学者、大塚久雄の『社会科学における人間』の中の次の部分について考えてみよう。

群衆の一人一人はそんな動きをすることがいやでしようがない。そんな気はぜんぜんない。しかも、自分たちの力のソウ和⁽¹⁴⁾が自分たち自身に対してまったくよそよそしい、疎遠なものになってしまっていて、逆に自分たちをあらゆる方向に押し動かしていく。これがいわゆる「疎外」現象なんです、とにかくそのなかでは、人間はもはや人間らしく主体であることをやめて、物とまったく同じに (15) になってしまっているわけです。

マルクスの「自然発生的分業」によって生じてくる「疎外」現象を説明するたとえとして持ち出されるこの比喩⁽¹³⁾は、確かに、私たち人間の社会における切実で時に恐ろしい問題を指し示しているように感じられる。

引用文に先立って大塚久雄が具体的な事例として挙げているのが、自身が子供のときに野球の試合を見物に行き、群衆の混乱の中に巻き込まれてひどい目にあった経験である。ここで、経済史学者としての大塚久雄の問題意識が、社会的存在としての人間のどのような属性に向けられているのか。社会という怪物の中に潜む、時に恐ろしいものの気配に敏感な者にとっては、いうまでもなく明らかなことだろう。

自然科学の記述として右の「疎外」論を読めば、いうまでもなくそれはあまりにも曖昧である。群衆というのはどれほどの規模の集団を指すのか、一人一人の身体の質量はいかほどで、どのような初期状態に分布しているのか？ 人と人の間に働く力は

距離の関数としてどう与えられるのか？「よそよそしい、疎遠なもの」とは、一体、力学的にいうとどんな現象を指すのか？これらの要素を具体的に記述し、必要に応じて実験やコンピュータ・シミュレーションをしなければ、群衆ダイナミクスの中の「疎外」の自然科学的記述は完結しないだろう。

その一方で、そのような厳密な条件詰めをすることによって、大塚久雄の社会科学的思考の本質とはずれた方向に導かれていつてしまうことも、また事実であるように思われる。

(16)、大塚の文章においては、その記述が具体的にどのような現象を指しているのか、厳密には規定されていない。しかし、だからこそ、そこには大塚の切実な問題意識が確かに立ち現れているのが感じられる。それは、戦争に突き進んでいく時代の個人の無力さを指しているのかもしれない。会社の中の人間関係のことかもしれない。マーケットに翻弄ほんろうされる生産者の切なさに関かわることかもしれない。人間が他者との関係性の中で生きるときに立ち現れる切なくも凄まじいさまざまな事態に対する大塚の鋭い感受性が伝わってくるからこそ、右に引用した文は力を持つ。

自然言語による思考は、曖昧だからこそ力を持つ、などとまで主張するつもりはない。(17)、曖昧さは確かに存在し、言葉に時に疑いような力を与えることを確認するだけである。その上であえていえば、自然言語における思考とは、曖昧さの芸術なのである。

(茂木健一郎「『曖昧さ』の芸術」による)

問1 傍線番号(1)・(4)・(5)・(9)・(12)・(14)と同じ漢字を使う語を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

20

25

(1)

異カイ

20

- ① カイ勤を讃える
- ② 内閣をカイ造する
- ③ 境カイ線をひく
- ④ 石カイ岩を削る
- ⑤ カイ議を欠席する

(5)

サ

22

- ① 一シを報いる
- ② パソコンを駆シする
- ③ 日時をシ定する
- ④ 先行投シする
- ⑤ シ激を与える

(12)

対チ

24

- ① 企業を誘チする
- ② 自転車を放チする
- ③ チ安を維持する
- ④ 佃チ観が違う
- ⑤ 周チの事実だ

(4)

ハク日

21

- ① 犯行を自ハクする
- ② ハク車をかける
- ③ ハク力ある文章
- ④ 二ハク三日の旅
- ⑤ 軽ハクな行動

(9)

ジ明

23

- ① 当ジ者に話を聞く
- ② 俗ジに入りやすい
- ③ ジ叙伝を書く
- ④ 臨ジニュースを聞く
- ⑤ 逐ジ刊行する

(14)

ソウ和

25

- ① 同ソウ会に行く
- ② ソウ飾を施す
- ③ 高ソウビルが建つ
- ④ 生徒ソウ会を開く
- ⑤ 敵にソウ遇する

問2 傍線番号(2)「『何でもあり』のブラックボックス」とあるが、それはどのような状態を表現しようとしたものか。その説

明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

26

- ① 無限の可能性を秘めた自由な世界ではあるが、それだけに底知れぬ恐ろしさも感じさせる状態
- ② 明確な形で実態を説明できていないため、とらえどころがなく、どのようにでも考えられる状態
- ③ だれもその実態をうかがい知ることができないため、神秘的で奥深い魅力をたたえている状態
- ④ 周囲から切り離された完結した世界の中で、すべてが曖昧なまま渾然こんぜん一体となっている状態
- ⑤ 超自然の世界とつながっており、現実の世界と対立する、妖怪ようかいがはびこっているような状態

問3 空欄番号

(3)

(16)

(17)

に入る語句として、最も適切なものを、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ
選びマークしなさい。ただし、重複は避けること。

27

29

① 確かに

② すなわち

③ ただ

④ なぜなら

⑤ ところが

(3)

(16)

(17)

27

28

29

問4

傍線番号(6)

「抽象的」とあるが、これの反対語として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

30

① 象徴的

② 一般的

③ 大衆的

④ 具体的

⑤ 画一的

問5

傍線番号(7)・(11)の品詞として、

適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

31

32

(7) きわめて

31

① 名詞

② 動詞

③ 連体詞

④ 副詞

⑤ 助動詞

(11) その

32

① 助詞

② 助動詞

③ 代名詞

④ 接続詞

⑤ 連体詞

問6 傍線番号(8)『思考の自然化』とでも呼ぶべき事態の進行』とあるが、その説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

33

- ① 人間の思考が、周囲の自然界と調和するものであることがわかってきたということ
- ② 人間の思考が、複雑なプロセスを経ないで自然におこなわれるものであるとわかってきたということ
- ③ 人間の思考が、物質的プロセスを経ないで自然言語によっておこなわれるものであるとわかってきたということ
- ④ 人間の思考が、脳内での厳密で精緻な自然法則に支えられていることがわかってきたということ
- ⑤ 人間の思考が、複雑なプロセスを排除して安易におこなわれるようになってきたということ

問7 傍線番号(10)「大変な問題」とあるが、それはどのような問題か。その説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

34

- ① 人間の思考についてのこれまでの科学的な研究が誤りだったのではないかという問題
- ② 人間の思考が自然科学的には永久に解明できないのではないかという問題
- ③ 人間の思考の曖昧さと脳の厳密な因果的進行とがどう関係しているのかという問題
- ④ 人間の思考がたんなる物質的プロセスの産物に過ぎないのではないかという問題
- ⑤ 人間の思考は実は厳密さを喪失してしまっているのではないかという問題

問 8 傍線番号(13)「次の部分について考えてみよう」とあるが、筆者はこの後の引用部分についてどのように評価しているか。

その説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

35

- ① 厳密な条件詰めをすることにより、社会的存在としての人間の問題点を鋭くえぐりだしている
- ② 群衆の中にある疎外のダイナミズムが、厳密な自然科学的記述によって描かれている
- ③ 自然科学的記述としては曖昧だが、社会的現象に対する鋭い問題意識や感受性が伝わってくる
- ④ 曖昧で厳密さを欠いた記述が、結果として大塚の問題意識を超えて多くの人に訴える力を持っている
- ⑤ 学問的に未成熟な内容だが、力学や関数などを援用すれば、自然科学として成り立つ記述である

問 9 空欄番号

(15)

に入る語句として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

36

- ① 静物
- ② 物体
- ③ 客人
- ④ 客体
- ⑤ 動物

問 10 本文の内容に合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

37

- ① 自然言語に数学的厳密さを適用することによって、より豊かでの確な表現が可能になる
- ② 自然言語も数学的な過程に還元されるので、曖昧な表現というのは本来ありえない
- ③ 曖昧な思考が物質である脳にどうやって宿るのかという仕組みが、数理的に解明されつつある
- ④ 自然言語は曖昧であればあるほど、逆に豊かで精緻な思考をすることが可能になる
- ⑤ 自然言語の持つ曖昧さや自由さが、社会的言説や芸術表現などを豊かにしている